

《判定結果の反映状況》

(単位：千円)

No.	対象事業	担当課	判定結果 (事業判定会)	見直しの検討結果 (市の対応)	予 算				R8当初 予算額	予算への反 映状況	摘要
					要求額	見直し後の 要求額	増減額	見直し箇所			
1	子育て応援サポート事業	子ども支援課	<p>【事業内容を一部見直す】</p> <p>担当課提案の事業については、外出や遠方へ行くことが難しい子育て世代の利便性向上につながる事業であり、ぜひ実施していただきたい事業です。しかしながら、オンライン相談において使用するツールについては、コスト面や、子ども支援課と健康増進センター、それぞれで対応する場合などを想定したうえで、検討してください。</p> <p>また、オンライン相談の見込み件数が少ないため、より多くの子育て世代にご活用いただけるよう、受付方法の工夫など、相談件数の増加が見込める実施方法や周知方法を検討してください。</p>	<p>令和7年度内の試行期間におきましては、録画・録音等の機能やミーティングの暗号化等のセキュリティ対策が充実したzoomを活用しておりますが、試行期間のアンケートを参考に、オンライン相談において使用するツール・受付方法・周知方法など令和8年度に向け、受付方法や相談枠など、実施方法を検討します。</p> <p>また、周知方法について若い世代が利用するデジタル媒体やプッシュ型通知など、実施に向けて検討を進めてまいります。</p> <p>オンライン相談の見込み件数につきましては、判定会において、年間10件程度と回答しましたが、年間96件の予約枠（月4回、1回あたり2枠）を設けているため、見込み件数を修正します。</p>	33	33	0	変更なし	33	担当課の要求を反映	
2	デジタルデバйд対策事業	デジタル推進課	<p>【事業内容を抜本的に見直す】</p> <p>デジタルデバйдを解消するための取組の必要性は理解しますが、対象者が誰なのか、参加者のレベルをどこまで引き上げるのかといった、事業の目的、効果、ターゲット、さらには事業の最終的なゴールについての具体化が不十分であると考えます。</p> <p>また、目的を達成するための手段として、1年間に6回の講座を約70万円の市税を投入して実施することが適切なのか、実施回数や受講定員等について見直ししてください。</p> <p>さらに、公民館等で実施しているスマホ講座といった既存の事業との連携・統合や、市民ボランティア講師を育成し、市民講師による講座を実施するなど、費用対効果の高い事業への見直しについても検討してください。</p>	<p>判定結果を踏まえ、新たな費用をかけて事業者に委託するのではなく、現在いるは遊学館で実施している「スマホのいろは」「サポーター体験講座」などの既存事業と連携を図るとともに、参加された方が、習得した知識をご家族やご近所などの身近な人たちに伝播させていくことで市民力の輪が広がるようなデジタルデバйд対策を推進してまいります。</p>	729	0	-729	新規委託等の費用をかけずに、既存の事業の連携を図りながらデジタルデバйд対策を実施。			
3	熱中症対策推進事業	学校教育課	<p>【事業内容を抜本的に見直す】</p> <p>熱中症対策の推進は大変重要ですが、システムの導入については慎重な議論が必要です。まずは本年10月まで実施していた実証検証の成果をしっかりと分析することが最優先であると考えます。システム導入のメリットの一つである、担当教員のみでは判断が困難であった事例の件数などの定量的データをもとに、必要性を再検討してください。</p> <p>また、システム導入によるメリットだけでなく、従来の教員による計測体制が途絶え、システムへ頼り切りとなってしまう懸念等、デメリットについても検証する必要があります。機器による精密な計測はもちろん、現場の教員による体感にも重要な意味があると考えことから、システムを導入した場合であっても、負担を抑えながら現場の教員による計測を並行するなどの運用指針を整備してください。</p> <p>教員の方々による計測がしっかりとできている今、未だ広く展開されていないシステムを複数年の契約で導入することについては、慎重な議論が必要と考えます。実証検証の分析や既に導入している自治体への調査により研究を重ねて令和9年度以降の予算要求へとつなげてください。</p>	<p>気象状況の変化に伴い、熱中症から児童生徒を守ることは学校現場にとって大変重要な課題となりました。本事業は、学校の教育活動を支援する教育委員会として、教職員の要望を踏まえた新システムの導入により課題解決を図りたいと考えたものです。</p> <p>今回の判定結果を踏まえ、システム導入の必要性については一定の理解を得たものと捉え、今後は課題として示された事項についてさらに検討を進めていきます。次年度以降、新たな機器やコストの軽減等を注視するとともに、従来の計測方法を改めて見直し、各校の状況に応じてより正確かつ教職員の負担を軽減する方策を継続して検討します。また、教職員による計測体制のよさは維持しつつも、計測精度を高めることや教職員組織全体で迅速に情報共有することは事故防止の観点からも重要であることから、新たな計測体制についても検討します。</p> <p>併せて、将来に渡って主体的に自身の健康管理に努めることができるよう、児童生徒においても日々の熱中症に関する情報共有が図れるよう多角的に検討します。</p>	4,004	0	-4,004	システム導入を見送り、熱中症対策について再検討。			

《判定結果の反映状況》

(単位：千円)

No.	対象事業	担当課	判定結果 (事業判定会)	見直しの検討結果 (市の対応)	予 算				R8当初 予算額	予算への反 映状況	摘要
					要求額	見直し後の 要求額	増減額	見直し箇所			
4	市の魅力発信動画（ショート動画） 作成に伴うアプリ及び諸機材等の導 入	市政情報課	<p>【事業内容を一部見直す】</p> <p>シティプロモーションの推進の必要性は理解しますが、具体的な取組内容の検討が不十分と考えます。まずは必要な取組を具体化したうえで、そのために必要な機材について、その機能やコストも含めて十分に吟味してください。また、喫緊の課題への対応に必要なものとして、市職員の発信力の向上に資する研修など、機材を十分に活用して発信を増やすための手法についても併せて検討を行ってください。</p> <p>また、すべてを市政情報課の職員だけで実施するのではなく、市役所全体で取り組める環境づくりや志木市自慢の市民力を活かした広報手法の検討が必要と考えます。併せて、SNSごとの特性を踏まえた発信内容の棲み分けを行い、利用者層を意識した戦略的な運用ルールを定めることも必要と考えます。</p> <p>なお、動画による魅力発信は、従来の広報手法で届かない層へのアプローチを含め、動画ならではの方法を試行するなど、慎重になりすぎず、トライ＆エラーを繰り返すような柔軟な発想で取り組んでほしいと考えます。今後、志木市のハズる動画を、楽しみにしています。</p>	<p>GOPROなどの撮影機器については撮影する人員体制を再度検討するとともに、機器の性能やコスト面を、次年度再度比較検討してから購入したいため、引き続き、研究をしてまいります。</p> <p>一方で、編集アプリにつきましては、シティプロモーションを推進していくうえで、見る人の興味を引く動画づくりが必須であり、そのためには手軽に編集が可能であるアプリを利用することが肝要であることから、法人版サブスクリプション費用を要求することとしました。</p>	148	15	-133	消耗品費、備品 購入費の減	15	担当課の 要求を反 映	
合 計					4,914	48	-4,866		48		